

様式 1

大学等名	東洋学園大学
プログラム名	数理・データサイエンス・AI教育プログラム

リテラシーレベルのプログラムを構成する授業科目について

① 教育プログラムの修了要件

学部・学科によって、修了要件は相違しない

② 対象となる学部・学科名称

③ 修了要件

「情報処理基礎A」(1単位)、「情報処理基礎B」(1単位)の2科目の単位を修得すること。

必要最低科目数・単位数

2 科目

2 単位

履修必須の有無

令和6年度以前より、履修することが必須のプログラムとして実施

④ 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
情報処理基礎A	1	○	○	○					

⑤ 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
情報処理基礎A	1	○	○	○					

⑥ 「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
情報処理基礎A	1	○		○	情報処理基礎B	1	○	○	

⑦ 「活用に応じた様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
情報処理基礎A	1	○	○	○					

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
情報処理基礎B	1	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1)現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	・ビッグデータ、IoT、AI、ロボット「情報処理基礎A」(6回目) ・第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会「情報処理基礎A」(6回目) ・人間の知的活動とAIの関係性「情報処理基礎A」(6回目) ・データを起点としたものの見方、人間の知的活動を起点としたものの見方「情報処理基礎A」(7回目)
	1-6	・AI最新技術の活用例(深層生成モデル、敵対的生成ネットワーク、強化学習、転移学習など)「情報処理基礎A」(7回目)
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	・調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど「情報処理基礎A」(8回目)
	1-3	・データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など)「情報処理基礎A」(8回目)
(3)様々なデータ利活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	・データ可視化:複合グラフ、2軸グラフ、多次元の可視化、関係性の可視化、地図上の可視化、挙動・軌跡の可視化、リアルタイム可視化など「情報処理基礎B」(8回目)(9回目)
	1-5	・流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI活用事例紹介「情報処理基礎A」(7回目)

(4) 活用に応じた様々な留意事項 (ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	・個人情報保護、EU一般データ保護規則(GDPR)、忘れられる権利、オプトアウト「情報処理基礎A」(12回目) ・データ倫理: データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護「情報処理基礎A」(12回目) ・AI社会原則(公平性、説明責任、透明性、人間中心の判断)「情報処理基礎A」(12回目)
	3-2	・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介「情報処理基礎A」(12回目)
(5) 実データ・実課題 (学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	・データの種類(量的変数、質的変数)「情報処理基礎B」(1回目) ・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)「情報処理基礎B」(1回目)
	2-2	・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ)「情報処理基礎B」(8回目)(9回目) ・不適切なグラフ表現(チャートジャンク、不必要な視覚的要素)「情報処理基礎B」(8回目)(9回目)
	2-3	・データの集計(和、平均)「情報処理基礎B」(2回目)(3回目) ・表形式のデータ(csv)「情報処理基礎B」(8回目)(9回目)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

シラバスより抜粋 (1) タイピング速度を向上させ、効率の良い文字入力ができる。 (2) 学内ネットワークシステムについて理解し、これを使いこなすことができる。 (3) Word を用いて正しい形式に則ったレポートを作成することができる。 (4) Excel を用いてデータを入力し、適切な表を作成したり、簡単なデータ処理を行うことができる。 (5) Excel を用いたデータ処理に必要な基本的な概念(四則演算、等号不等号、条件分岐、表やグラフの見方や適切な使い方)を説明することができる。 (6) Excel を用いたデータ処理において適切に関数や表、グラフの機能を使い、資料を作成することができる。 (7) PowerPoint を用いてわかりやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。 (8) 数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)に関する基本的な知識を身につけ、データを理解し、適切に扱うことができる。 (9) コンピュータ利用のモラルやマナー、セキュリティの観点から適切な行動がとれる。 大学での学習に必要なデータベースの基本を理解し、使用することができる。 (10) MOS の試験問題に触れ、MOS 受験への意識を高める。

リテラシーレベルのプログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度

令和6 年度(和暦)

②大学等全体の男女別学生数

男性 1303 人 女性 889 人 (合計 2192 人)

(令和6年5月1日時点)

③履修者・修了者の実績

学部・学科名称	学生数	入学 定員	収容 定員	令和6年度		令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度		令和元年度		履修者数 合計	履修率
				履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数		
グローバル・コミュニケーション学部	609	210	940	102	85											102	11%
人間科学部	765	200	840	174	133											174	21%
現代経営学部	818	245	990	178	136											178	19%
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
合 計	2,192	655	2,720	454	354	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	454	17%

大学等名 東洋学園大学

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数 (常勤) 70 人 (非常勤) 121 人

② プログラムの授業を教えている教員数 3 人

③ プログラムの運営責任者
(責任者名) 澁谷 智久 (役職名) 数理・データサイエンス・AI 教育運営委員会 委員長

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)
東洋学園大学 数理・データサイエンス・AI教育運営委員会
(責任者名) 澁谷 智久 (役職名) 委員長

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称
東洋学園大学 数理・データサイエンス・AI教育運営委員会規程

⑥ 体制の目的
数理・データサイエンス・AI教育プログラムの円滑な運営を図るために必要な連絡調整を行い、本学におけるプログラムの推進及び質の向上を図ることを目的として、令和5年10月1日に「東洋学園大学 数理・データサイエンス・AI教育運営委員会」を設置した。本委員会では、授業科目並びに教育プログラムの点検評価・改善・充実とその支援に取り組んでいる。

⑦ 具体的な構成員
【委員長】
人間科学部 教授 澁谷 智久
【委員】
人間科学部 教授 中村 哲之
グローバル・コミュニケーション学部 教授 泰松 範行
グローバル・コミュニケーション学部 講師 門田 実
現代経営学部 講師 岑 昕

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和6年度実績	17%	令和7年度予定	40%	令和8年度予定	70%
令和9年度予定	100%	令和10年度予定	100%	収容定員(名)	2,720
具体的な計画					
本学では、1年次(全学部)の必修科目である「情報処理基礎A」「情報処理基礎B」により本プログラムが構成されているため、履修者数・履修率の向上に向けた計画は特にない。ただし、令和6年度から開設されたカリキュラムのため、完成年次を迎える令和9年度に、全学生の履修率が100%に近づくこととなる。					

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

本学では、1年次(全学部)の必修科目である「情報処理基礎A」「情報処理基礎B」により本プログラムが構成されており、すでに学生全員が受講できる体制となっているため、履修者数・履修率の向上に向けた計画は特にない。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

本学では、1年次(全学部)の必修科目である「情報処理基礎A」「情報処理基礎B」により本プログラムが構成されており、すでに学生全員が履修できるため、多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組みは特にない。
--

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

授業において教員の他に各クラスにサブ講師を置いて、2名体制で学生の指導を行い、単位修得者数の向上を図っている。教員と各サブ講師は学生の理解状況を把握しながら、授業でついていけない学生を常にピックアップをして課題等や個別対応をおこなっている。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

授業において教員の他に各クラスにサブ講師を置いて、2名体制で学生の指導を行い、単位修得者数の向上を図っている。教員と各サブ講師は学生の理解状況を把握しながら、授業でついていけない学生を常にピックアップをして課題等や個別対応をおこなっている。課題等は学内のキャンパスクロスで実施し、授業時間外でも自主的に学習できるようにしている。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

東洋学園大学 数理・データサイエンス・AI教育運営委員会

(責任者名) 澁谷 智久

(役職名) 委員長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	本プログラムは、「情報処理基礎A」(春学期)、「情報処理基礎B」(秋学期)で構成される(各1単位、合計2単位)。いずれも1年次必修科目であるため、履修率は100%となっている。 単位修得率は78%(354/454)となった。 いずれの科目においても、単位が修得できなかった学生は、翌年度に再履修クラスにて単位の修得をめざす。
学修成果	情報処理基礎Aにおいては、以下の8項目を到達目標と置いている。 (1)タイピング速度を向上させ、効率の良い文字入力ができる。 (2)学内ネットワークシステムについて理解し、これを使いこなすことができる。 (3)Wordを用いて正しい形式に則ったレポートを作成することができる。 (4)Excelを用いてデータを入力し、適切な表を作成したり、簡単なデータ処理を行うことができる。 (5)PowerPointを用いてわかりやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。 (6)数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)に関する基本的な知識を身につけ、データを理解し、適切に扱うことができる。 (7)コンピューター利用のモラルやマナー、セキュリティの観点から適切な行動がとれる。 (8)MOSの試験問題に触れ、MOS受験への意識を高める。 また、情報処理基礎Bにおいては、以下の7項目を到達目標と置いている。 (1)Excelを用いた効率的なデータ入力と演算(計算)ができる。 (2)学内ネットワークシステムについて理解し、これを使いこなすことができる。 (3)Excelを用いたデータ処理に必要な基本的な概念(四則演算、等号不等号、条件分岐、表やグラフの見方や適切な使い方)を説明することができる。 (4)Excelを用いたデータ処理において適切に関数や表、グラフの機能を使い、資料を作成することができる。 (5)数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)に関する基本的な知識を身につけ、データを理解し、適切に扱うことができる。 (6)大学での学習に必要なデータベースの基本を理解し、使用することができる。 (7)MOSの試験問題に触れ、MOS受験への意識を高める。 これらの目標に対し、事前学習0.5時間、事後学習0.5時間及び授業において、学生が到達できるように授業を構成する。 評価を「授業への参加度(30%)」「演習課題(20%)」「タイピング試験(20%)」「期末試験(30%)」により総合的に行い、学生の理解度を図ることとしている。 そのほかFD委員会が本学における開講科目全てに実施する授業アンケート(次項目とは異なる)においても、回答の自由記述内容を踏まえ各担当教員が授業内容の改善を実施している。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	本プログラムの履修者を対象に、FD委員会が実施する授業評価アンケートと異なる内容の学生アンケートを実施している。 「この授業を理解できましたか?」の設問については、秋学期は春学期に比して「そう思う」と回答した割合は高くなったが、ポジティブ回答(「そう思う」「いくらかそう思う」)全体の割合はやや減少し、秋学期の理解度は少し下がったことが把握できる。本授業を実施する教室には、メインの講師のほかサブ講師を配置しており、学生がわからない部分があるときにすぐに解消できる、目配りの利く体制を取っていることがこの結果に現れていると考えられる。 ふたつめの「データサイエンスに関する基礎的な知識や利活用について理解しましたか?」の質問項目については、春学期・秋学期とも、ポジティブ回答の割合が伸び、秋学期は75%以上の履修学生がデータサイエンスに関する基礎的な知識や利活用について理解できた結果となり、概ね理解を得ていると受け止めている。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	学生アンケート「この授業で得た知識やスキルをほかの勉強や仕事で生かせると思うか?」との設問に対しては、秋学期は春学期に比して「そう思う」と回答した割合は高くなったが、ポジティブ回答全体の割合は横ばいであった。この授業で得たスキル等を活かせると思う履修学生は80%を超えた結果となった。 また「友人や後輩にこの授業を勧めたいですか?」の設問に対しては、春学期・秋学期とも、ポジティブ回答の割合が伸び、秋学期は70%の履修学生がこの授業を勧めたいという結果となった。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	前述のとおり、本プログラムを構成する科目は必修科目であることから、履修率は100%ではある。次の段階として、本科目を不合格となり、翌年度に再履修する学生が少なくない現状に照らし、学生の理解度をさらに向上させることが必要と考える。
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	当該授業は2024年度より開講されたため、当該授業を修得し、単位を修得して卒業した学生はいない。そのため、該当する学生の進路等を調査することは困難である。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	本プログラムの対象は1年次であり、実施初年度であることを踏まえ、今回は高校と大学、大学と社会の接続の観点を重視し、入学前教育・キャリア支援におけるSPI等を委託する外部のアドバイザーに、産業界からの視点を含めた改善の意見を聴取した。 具体的には「他大学より手厚い印象がある」「確認のための課題を課し習熟度別にクラス分けするのはよい」「AIやSociety5.0など、企業研修にも含まれる内容を大学でも実施することはよい」などの評価に加え、「情報に関するモラル、マナー、リスクが含まれていると大変素晴らしい」などの意見をいただいた。 聴取した意見は、数理・データサイエンス・AI教育運営委員会において共有した上で、各担当教員にフィードバック、次年度の授業に反映させる。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	「情報処理基礎A」及び「情報処理基礎B」は、モデルカリキュラムに基づき、コンピュータを「ツール」として用いデータを扱う方法や、データサイエンスの重要性を理解させながら、データ・AIの利活用における留意事項を学ぶ内容としている。 授業内容については、教養教育センターが実施するアンケートにより受講者の関心や理解度を分析し、次年度への改善に活用している。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載	このプログラムでは、数学的知識を必要とせず、情報化が進む現代社会においておさえておくべき基本的な数理・データサイエンス・AIに関する知識と、モラルやマナーを学び、社会でのコンピュータ利用についても理解を深めていく。 授業評価アンケートの結果を参考にしながら、授業内容と水準の維持・向上を図り、学生が理解しやすい授業方法を常に検討する。

区分	表現伝達科目	科目名	情報処理基礎 A		担当者	栗林/竹内/西山	
	開 講 期 間	春学期		選 択 ・ 必 修 の 別	必修		
	配 当 年 次	1 年		単 位 数	1 単位		
	授 業 形 態	実習科目		ナ ン バ リ ン グ	7INF-101		
	実務経験の有無			適用カリキュラム年度	2024 年度		
	ディプロマポリシー(DP)における教育目標						
	カリキュラム・ポリシー(CP)上の位置づけ						
講義の目的 内容	現代社会においてコンピューターは欠かすことのできない大切な“道具”となっています。したがって、大学生のうちにコンピューターを用いた情報処理スキルを身につけておかねばなりません。また、大学の学びの中でもコンピューターを使うシーンは多く、例えばレポートを書いたり、文献を調べたり、データを整理したり、プレゼンテーションをしたりするときにはコンピューターを使います。紙と鉛筆だけでは実現できないことを、コンピューターを使えばいとも簡単に実現できるのです。 この「情報処理基礎」の授業では、大学での学びにおいて必要な情報処理スキルに焦点をあて、それを獲得することを目的としています。「情報処理基礎 A」ではコンピューター操作に慣れるとともに文書作成ソフト(Word)や表計算ソフト(Excel)、プレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使い方について学び、コンピューターを用いたレポートの作成やデータ入力と表の作成、プレゼンテーション資料を作成する情報処理スキルを学びます。 また、情報化が進む現代社会においておさえておくべき基本的な数理・データサイエンス・AI に関する知識とモラルやマナーを学び、社会でのコンピューター利用についても理解を深めていきます。 さらにタイピングの能力は課題遂行の作業効率を上げるうえで欠かすことはできません。したがって、タイピングを毎回行い、試験も実施します。 なお、本科目は、数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)の認定教育プログラムを構成する科目となっています。 ※積み重ねが特に大切な科目のため、全ての授業回において基本的に遅刻・欠席厳禁です。そのなかでも、第1回目には授業の進め方など特に重要な説明を行います。万が一欠席すると、その後の授業回の内容を理解することが困難となり、単位修得が厳しくなる可能性があるため、必ず出席して下さい。						
到達 目標	(1)タイピング速度を向上させ、効率の良い文字入力ができる。 (2)学内ネットワークシステムについて理解し、これを使いこなすことができる。 (3)Word を用いて正しい形式に則ったレポートを作成することができる。 (4)Excel を用いてデータを入力し、適切な表を作成したり、簡単なデータ処理を行うことができる。 (5)PowerPoint を用いてわかりやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。 (6)数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)に関する基本的な知識を身につけ、データを理解し、適切に扱うことができる。 (7)コンピューター利用のモラルやマナー、セキュリティの観点から適切な行動がとれる。 (8)MOS の試験問題に触れ、MOS 受験への意識を高める。						
評価の 方法・基準	【評価方法】 授業への参加度(30%)、演習課題(20%)、タイピング試験(20%)、期末試験(30%)により総合的に評価します。単位取得(C 評価以上)のためには期末試験を受験する必要があります。 【評価基準】 A:80～100 B:70～79 C:60～69 D:60 未満						
テキスト	No	教科書名		著者	ISBN	出版社	出版年
	1	イチからしっかり学ぶ!Office 基礎と情報モラル Office365・Office2019 対応【NESS 付】		noa 出版	978-4908434358	noa 出版	2019
	2						
	3						
参考文献等	授業中に必要に応じてプリントを配布したり、書籍(『はじめての Word2016』桑名由美ら、秀和システムほか)を適宜紹介する。						
実務経験の概要 と授業の関連性							

	主題	概要	事前学習	時間	事前・事後学習
			事後学習		
1	ガイダンス、学内ネットワークとシステムの活用など基本的なコンピュータの使用方法、Wordの基礎的操作①	授業の進め方、PC教室の利用方法、学内コンピュータの使い方とログイン方法、アカウントの初期設定、学内ネットワークシステム(TG-Navi、Campus-Xs)の利用方法、OneDriveを用いたファイル管理、Outlookメール設定とメールの送受信といった大学生活を送るうえで欠かせないコンピュータの基本的な使用方法について理解する。さらに授業内容や進め方からWordの基本操作として簡単な文書入力を用いてタッチタイピングと各文字種のタイピング、効率の良い文字入力、変換、保存方法について学ぶ。	事前学習	0.5	学内におけるコンピュータの使用方法やOffice365の利用方法、シラバスを確認する。わからないところはCampus Xsから質問すること。
			事後学習	0.5	それぞれの使い方について復習する。次の授業で振り返りをおこなう。タッチタイピングの練習をする。
2	Wordの基本的操作②、タイピング試験①	タブとインデント、箇条書きと段落番号、ワードアート、保存、印刷、メールへのファイル添付と送信について学ぶ。タイピング試験を行う。	事前学習	0.5	テキストの該当箇所を確認しておく。わからないところはCampus Xsから質問すること。タッチタイピングの練習をする。
			事後学習	0.5	学習したWordの機能を使いこなせるようにしっかりと復習をし、さらに応用できるようにする。次の授業で振り返りをおこなう。タッチタイピングの練習をする。
3	Wordの基本的操作③、タイピング	表の作成と編集、図形・画像の挿入、保存、印刷、メールへのファイル添付と送信について学ぶ。	事前学習	0.5	テキストの該当箇所を確認しておく。わからないところはCampus Xsから質問すること。タッチタイピングの練習をする。
			事後学習	0.5	学習したWordの機能を使いこなせるようにしっかりと復習をし、さらに応用できるようにする。次の授業で振り返りをおこなう。タッチタイピングの練習をする。
4	Wordの基本的操作④、タイピング	レポート作成における必須の機能として、ページ設定、表紙の作成、ページ番号、ヘッダーとフッターについて学ぶ。さらにこれまで学習したWord機能を駆使して、さまざまな形式の文書を作成する。	事前学習	0.5	これまで学んだ内容、テキストの該当箇所を確認しておく。わからないところはCampus Xsから質問すること。タッチタイピングの練習をする。
			事後学習	0.5	学習したWordの機能を使いこなせるようにしっかりと復習をし、さらに応用できるようにする。次の授業で振り返りをおこなう。タッチタイピングの練習をする。
5	Wordの基本的操作⑤、タイピング	レポート作成における必須の機能として、引用、図表番号、脚注の挿入、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正などについて学ぶ。さらに、さらにこれまで学習したWord機能を駆使して、さまざまな形式の文書を作成する。	事前学習	0.5	これまで学んだ内容、テキストの該当箇所を確認しておく。わからないところはCampus Xsから質問すること。タッチタイピングの練習をする。
			事後学習	0.5	学習したWordの機能を使いこなせるようにしっかりと復習をし、さらに応用できるようにする。次の授業で振り返りをおこなう。タッチタイピングの練習をする。
6	数理・データサイエンス・AIに関する基礎知識①、Wordを用いたレポート作成、タイピング試験②	データサイエンスに関する社会の変化(ビッグデータ、AI(生成AI)、Society5.0など)について学び、レポート形式に沿ってレポートを作成する。タイピング試験を行う。	事前学習	0.5	これまで学んだ内容、テキストの該当箇所を確認しておく。わからないところはCampus Xsから質問すること。データサイエンスに関する資料を読む。タッチタイピングの練習をする。
			事後学習	0.5	学習したことを振り返る。次の授業で振り返りをおこなう。タッチタイピングの練習をする。
7	数理・データサイエンス・AIに関する基礎知識②、Wordを用いたレポート作成、タイピング	データやAIの利活用の最新事情として、データサイエンスのサイクルやAI技術の活用例について学び、レポート形式に沿ってレポートを作成する。	事前学習	0.5	これまで学んだ内容、テキストの該当箇所を確認しておく。わからないところはCampus Xsから質問すること。データサイエンスに関する資料を読む。タッチタイピングの練習をする。
			事後学習	0.5	学習したことを振り返る。次の授業で振り返りをおこなう。タッチタイピングの練習をする。
8	Excelの基礎的操作①、数理・データサイエンス・AIに関する基礎知識③、タイピング	社会におけるデータやAIの活用例(生産・消費・文化活動など)について概観する。Excel操作としてデータ入力とデータ編集、表作成について学ぶ。	事前学習	0.5	テキストの該当箇所を確認しておく。わからないところはCampus Xsから質問すること。データサイエンスに関する資料を読む。タッチタイピングの練習をする。
			事後学習	0.5	授業で学んだことや学習したExcelの機能を使いこなせるようにしっかりと復習をし、さらに応用できるようにする。次の授業で振り返りをおこなう。タッチタイピングの練習をする。
9	Excelの基礎的操作②、タイピング試験③	作成した表を用いて、データ処理の基本を学ぶ。タイピング試験を行う。	事前学習	0.5	テキストの該当箇所を確認しておく。わからないところはCampus Xsから質問すること。タッチタイピングの練習をする。
			事後学習	0.5	学習したExcelの機能を使いこなせるようにしっかりと復習をし、さらに応用できるようにする。次の授業で振り返りをおこなう。タッチタイピングの練習をする。
10	PowerPointの基本操作①、タイピング	PowerPointの基本操作として、起動と保存、スライド作成、テーマの設定、書式設定、スライドの編集、画面切り替え効果について学ぶ。	事前学習	0.5	テキストの該当箇所を確認しておく。わからないところはCampus Xsから質問すること。タッチタイピングの練習をする。
			事後学習	0.5	学習したPowerPointの機能を使いこなせるようにしっかりと復習をし、さらに応用できるようにする。次の授業で振り返りをおこなう。タッチタイピングの練習をする。
11	PowerPointの基本操作②、タイピング	アニメーション効果、スライドショーの設定、ノート設定、印刷操作について学ぶ。タイピング試験を実施する。	事前学習	0.5	前回の操作方法を確認しておく。タッチタイピングの練習をしておく。わからないところはCampus Xsから質問すること。
			事後学習	0.5	学習したPowerPointの機能を使いこなせるようにしっかりと復習をし、さらに応用できるようにする。次の授業で振り返りをおこなう。タッチタイピングの練習をする。
12	PowerPointを用いたプレゼンテーション資料作成演習①、コンピュータ利用のモラルやマナーとセキュリティ、数理・データサイエンス・AIに関する基礎知識④、タイピング試験④	コンピュータやデータ・AIを利用する上での留意事項について、倫理、セキュリティ、モラルやマナーの観点から学び、出題されるテーマについてレポートの形式に則ってPowerPointプレゼンテーション資料を作成する。発表技術について学ぶ。	事前学習	0.5	テキストの該当箇所を確認しておく。わからないところはCampus Xsから質問すること。タッチタイピングの練習をする。
			事後学習	0.5	授業で学んだことや、学習したPowerPointの機能を使いこなせるようにしっかりと復習をし、さらに応用できるようにする。次の授業で振り返りをおこなう。タッチタイピングの練習をする。
13	PowerPointを用いたプレゼンテーション資料作成演習②、タイピング	ゼミでの発表をイメージしたPowerPointプレゼンテーション資料を作成する。発表技術について学ぶ。	事前学習	0.5	プレゼンテーションするストーリーを決めておく。スライド作成用の資料を準備しておく。わからないところはCampus Xsから質問すること。タッチタイピングの練習をする。
			事後学習	0.5	これまでの操作方法を確認し、練習をする。次の授業で振り返りをおこなう。タッチタイピングの練習をする。
14	総合演習、MOS問題演習、タイピング	これまで学んだ操作を駆使して課題を遂行する。MOSの試験問題を解く。	事前学習	0.5	これまで学んだことを確認しておく。わからないところはCampus Xsから質問すること。タッチタイピングの練習をする。
			事後学習	0.5	できなかった箇所を練習する。次の授業で振り返りをおこなう。タッチタイピングの練習をする。
15	まとめと期末試験、タイピング試験⑤	Word、Excel、PowerPointの操作方法について確認する。タイピング試験を行う。	事前学習	0.5	これまで学んだことを確認しておく。わからないところはCampus Xsから質問すること。タイピング練習しておく。
			事後学習	0.5	できなかった箇所を練習する。

区分	表現伝達科目	科目名	情報処理基礎 B		担当者	栗林/竹内/西山	
	開 講 期 間	秋学期		選 択 ・ 必 修 の 別	必修		
	配 当 年 次	1 年		単 位 数	1 単位		
	授 業 形 態	実習科目		ナ ン バ リ ン グ	7INF-102		
	実務経験の有無			適用カリキュラム年度	2024 年度		
	ディプロマポリシー(DP)における教育目標						
	カリキュラム・ポリシー(CP)上の位置づけ						
講義の目的・内容	現代社会においてコンピューターは欠かすことのできない大切な“道具”となっています。したがって、大学生のうちにコンピューターを用いた情報処理スキルを身につけておかなければなりません。また、大学の学びの中でもコンピューターを使うシーンは多く、例えばレポートを書いたり、文献を調べたり、データを整理したり、プレゼンテーションをしたりするときにはコンピューターを使うのです。紙と鉛筆だけでは実現できないことを、コンピューターを使えばいとも簡単に実現できるのです。 「情報処理基礎」の授業では、大学での学びにおいて必要な情報処理スキルに焦点をあて、それを獲得することを目的としています。この「情報処理基礎 B」では表計算ソフト(Excel)の使い方について学び、コンピューターを用いたデータをまとめたり分析したりする情報処理スキルを身につけます。例えば、コンピューターを用いて数値データを整理して表やグラフを作成したり、平均値など簡単な統計量を求めたりします。また、情報化が進む現代社会においておさえておくべき基本的な数理・データサイエンス・AI に関する理解を深めていきます。 さらにタイピングの能力は課題遂行の作業効率を上げるうえで欠かすことはできません。したがって、タイピングを毎回行い、試験も実施します。 なお、本科目は、数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)の認定教育プログラムを構成する科目となっています。 ※積み重ねが特に大切な科目のため、全ての授業回において基本的に遅刻・欠席厳禁です。そのなかでも、第1回目には授業の進め方など特に重要な説明を行います。万が一欠席すると、その後の授業回の内容を理解することが困難となり、単位修得が厳しくなる可能性があるため、必ず出席をして下さい。						
到達目標	(1) Excel を用いた効率的なデータ入力と演算(計算)ができる。 (2) 学内ネットワークシステムについて理解し、これを使いこなすことができる。 (3) Excel を用いたデータ処理に必要な基本的な概念(四則演算、等号不等号、条件分岐、表やグラフの見方や適切な使い方)を説明することができる。 (4) Excel を用いたデータ処理において適切に関数や表、グラフの機能を使い、資料を作成することができる。 (5) 数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)に関する基本的な知識を身につけ、データを理解し、適切に扱うことができる。 (6) 大学での学習に必要なデータベースの基本を理解し、使用することができる。 (7) MOS の試験問題に触れ、MOS 受験への意識を高める。						
評価の方法・基準	【評価方法】 授業への参加度(30%)、演習課題(20%)、タイピング試験(20%)、期末試験(30%)により総合的に評価します。単位取得(C 評価以上)のためには期末試験を受験する必要があります。 【評価基準】 A:80～100 B:70～79 C:60～69 D:60 未満						
テキスト	No	教科書名	著者		ISBN	出版社	出版年
	1	情報リテラシーを身につける Excel [改訂版]	阿南大、水野 有希、泰松 範行、 澁谷 智久、門田 実、栗林 克寛		978-4794426215	創成社	2023
	2						
	3						
参考文献等	参考テキスト 『イチからしっかり学ぶ!Office 基礎と情報モラル Office365・Office2019 対応【NESS 付】』noa 出版 他、必要に応じてプリントを配布したり、書籍を適宜紹介する。						
と授業の関連性							

	主題	概要	事前学習 事後学習	時間	事前・事後学習
			事前学習		
1	ガイダンス、Excel の基本的操作の確認、数理・データサイエンス・AI に関する基礎知識①、タイピング	授業内容や進め方から春学期基礎 A で学んだ Excel の基本操作について復習をする(単純な表の作成、直接数式入力による四則演算、保存方法)。さらに、社会でのデータ活用例からデータの種類など Excel で扱う“データ”について学ぶ。	事前学習	0.5	基礎 A の Excel の単元を復習しておく。わからないところは Campus Xs から質問すること。タッチタイピングの練習をする。
			事後学習	0.5	授業で学んだことを復習する。次の授業で振り返りをおこなう。タッチタイピングの練習をする。
2	Excel の基礎的的操作と関数①、数理・データサイエンス・AI に関する基礎知識②、タイピング試験①	Excel 関数(関数ボックス使用、SUM、AVERAGE、MAX、MIN など)を用いた基本的なデータの集計、表作成と体裁について学ぶ。タイピング試験を行う。	事前学習	0.5	これまで学んだ内容とテキストの該当箇所を確認しておく。わからないところは Campus Xs から質問すること。タッチタイピングの練習をする。
			事後学習	0.5	授業で学んだことを復習し、練習する。次の授業で振り返りをおこなう。タッチタイピングの練習をする。
3	Excel の基礎的的操作と関数②、タイピング	Excel 関数(数式直接入力、SUM、AVERAGE、MAX、MIN など)、表作成と体裁について学ぶ。	事前学習	0.5	これまで学んだ内容とテキストの該当箇所を確認しておく。わからないところは Campus Xs から質問すること。タッチタイピングの練習をする。
			事後学習	0.5	授業で学んだことを復習し、練習する。次の授業で振り返りをおこなう。タッチタイピングの練習をする。
4	Excel の基礎的的操作と関数③、タイピング	Excel 関数(関数ボックス使用、ROUND、COUNT、COUNTA、INT など)、表作成と体裁について学ぶ。	事前学習	0.5	これまで学んだ内容とテキストの該当箇所を確認しておく。わからないところは Campus Xs から質問すること。タッチタイピングの練習をする。
			事後学習	0.5	授業で学んだことを復習し、練習する。次の授業で振り返りをおこなう。タッチタイピングの練習をする。
5	Excel の基礎的的操作と関数④、タイピング試験②	Excel 関数(数式直接入力、ROUND、COUNT、COUNTA、INT など)、表作成と体裁について学ぶ。タイピング試験を行う。	事前学習	0.5	これまで学んだ内容とテキストの該当箇所を確認しておく。わからないところは Campus Xs から質問すること。タッチタイピングの練習をする。
			事後学習	0.5	授業で学んだことを復習し、練習する。次の授業で振り返りをおこなう。タッチタイピングの練習をする。
6	これまでの振り返りと中間課題演習①	これまでの振り返りと中間試験としてこれまで学んだ操作を駆使して課題を解く。	事前学習	0.5	これまで学んだ内容とテキストの該当箇所を確認しておく。わからないところは Campus Xs から質問すること。タッチタイピングの練習をする。
			事後学習	0.5	難しかったり、つまづいた内容について復習をする。次の授業で振り返りをおこなう。タッチタイピングの練習をする。
7	より発展的な Excel の操作①、タイピング	複雑な計算、相対参照と絶対参照機能の活用を学ぶ。	事前学習	0.5	テキストの該当箇所を確認しておく。わからないところは Campus Xs から質問すること。
			事後学習	0.5	複雑な計算、相対参照と絶対参照機能の練習をする。次の授業で振り返りをおこなう。
8	より発展的な Excel の操作②、数理・データサイエンス・AI の基礎知識③、タイピング試験③	効率的な表作成法、グラフによるデータ表現とデータの適切な読み取りや分析する力の養成、タイピング試験を行う。	事前学習	0.5	これまで学んだ内容とテキストの該当箇所を確認しておく。わからないところは Campus Xs から質問すること。タッチタイピングの練習をする。
			事後学習	0.5	授業で学んだことを復習し、練習する。次の授業で振り返りをおこなう。タッチタイピングの練習をする。
9	より発展的な Excel の操作③、MOS 問題演習、タイピング	効率的な表作成法、グラフによるデータ表現を学ぶ。MOS の試験問題を解く。	事前学習	0.5	これまで学んだ内容とテキストの該当箇所を確認しておく。わからないところは Campus Xs から質問すること。タッチタイピングの練習をする。
			事後学習	0.5	授業で学んだことを復習し、練習する。次の授業で振り返りをおこなう。タッチタイピングの練習をする。
10	これまでの振り返りと中間課題演習②、タイピング	これまでの振り返りと中間試験としてグラフ作成に関する演習課題を行う。	事前学習	0.5	これまで学んだ内容とテキストの該当箇所を確認しておく。わからないところは Campus Xs から質問すること。タッチタイピングの練習をする。
			事後学習	0.5	難しかったり、つまづいた内容について復習をする。次の授業で振り返りをおこなう。タッチタイピングの練習をする。
11	より発展的な Excel の操作④、タイピング試験④	Excel 関数(関数ボックス使用:IF 関数)について学ぶ。タイピング試験を行う。	事前学習	0.5	これまで学んだ内容を振り返り、使えるようにしておく。わからないところは Campus Xs から質問すること。タッチタイピングの練習をする。
			事後学習	0.5	授業で学んだことを復習し、練習する。次の授業で振り返りをおこなう。タッチタイピングの練習をする。
12	より発展的な Excel の操作⑤、タイピング	Excel 関数(関数ボックス使用 or 直接関数入力:複数条件の IF 関数)	事前学習	0.5	これまで学んだ内容を振り返り、使えるようにしておく。わからないところは Campus Xs から質問すること。タッチタイピングの練習をする。
			事後学習	0.5	授業で学んだことを復習し、練習する。次の授業で振り返りをおこなう。タッチタイピングの練習をする。
13	総合演習、MOS 問題演習、タイピング	これまで学んだ操作を駆使してデータ処理課題を遂行する。MOS の試験問題を解く。	事前学習	0.5	これまで学んだことを確認しておく。わからないところは Campus Xs から質問すること。タッチタイピングの練習をする。
			事後学習	0.5	できなかった箇所を練習する。次の授業で振り返りをおこなう。タッチタイピングの練習をする。
14	データベース検索、タイピング	大学での学習に必要な図書館データベース検索やインターネット検索についての基礎スキルを学ぶ。	事前学習	0.5	図書館 HP にアクセスし、使用できるデータベースの種類を確認する。わからないところは Campus Xs から質問すること。
			事後学習	0.5	使いこなせるように練習する。次の授業で振り返りをおこなう。
15	まとめと期末試験、タイピング試験⑤	これまで学んだ Excel の操作方法について確認する。タイピング試験を実施する。	事前学習	0.5	これまで学んだことを確認しておく。わからないところは Campus Xs から質問すること。タイピングの練習をしておく。
			事後学習	0.5	できなかった箇所を練習する。

1-1 現代経営学部現代経営学科の履修要領

(1) 現代経営学科 授業科目一覧 (2024年度入学生用)

<基本教育科目：教養演習科目・表現伝達科目>

区 分		授 業 科 目	履 修 年 次				単 位 数		卒 業 要 件			
			1	2	3	4	必修	選択				
基 本 教 育 科 目	教養演習科目		◎ ◎				1 1		教養演習科目は必修科目2単位を修得しなければならない。			
	英語表現科目	GENKEI English Presentation A GENKEI English Presentation B GENKEI English PBL A GENKEI English PBL B GENKEI Business English A GENKEI Business English B	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎				1 1 1 1 1 1			表現伝達科目は、必修科目9単位を含め、合計12単位以上を修得しなければならない。		
		表現伝達科目	フランス語A フランス語B 中国語A 中国語B ハングルA ハングルB スペイン語A スペイン語B 日本語A 注1) 日本語B 注1) フランス語会話 中国語会話 ハングル会話 スペイン語会話	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○					1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		なお、表現伝達科目の各科目区分の要件を満たしたうえで12単位を超えて修得した単位については、自由選択科目の単位に含まれる。	
			日本語表現科目	日本語表現法 日本語表現技法		◎ ○			1 1			
				情報処理科目	情報処理基礎A 情報処理基礎B 情報処理応用A 情報処理応用B データ・プレゼンテーション技法 メディア・コンテンツ制作技法 データ・サイエンス技法 統計分析技法	◎ ◎ ○ ○ ○ ○ ○						1 1

注1) 「日本語A」「日本語B」の履修対象者は、留学生・帰国学生に限る。

(3) 人間科学科 授業科目一覧 (2024年度入学生用)

<基本教育科目：教養演習科目・表現伝達科目>

区 分		授 業 科 目	履 修 年 次				単 位 数		卒 業 要 件
			1	2	3	4	必修	選択	
基 本 教 育 科 目	教養演習科目		◎ ◎				1 1		教養演習科目は必修科目 2単位を修得しなければならない。
	英語表現科目	College English I -1A	◎				1		表現伝達科目は、 必修科目11単位を 含め、合計14単位 以上を修得しなけ ればならない。 なお、表現伝達科 目の各科目区分の 要件を満たしたう えで14単位を超え て修得した単位に ついては、自由選 択科目の単位に含 まれる。
		College English I -1B	◎				1		
		College English I -2A	◎				1		
		College English I -2B	◎				1		
		College English I -3A	◎				1		
		College English I -3B	◎				1		
		College English II -1A		◎			1		
		College English II -1B		◎			1		
		ALPS (英語特別選抜クラス) I -1A 注1)		◎			1		
		ALPS (英語特別選抜クラス) I -1B 注1)		◎			1		
		ALPS (英語特別選抜クラス) I -2A 注1)		◎			1		
		ALPS (英語特別選抜クラス) I -2B 注1)		◎			1		
		ALPS (英語特別選抜クラス) II -1A 注1)			◎		1		
		ALPS (英語特別選抜クラス) II -1B 注1)			◎		1		
		ALPS (英語特別選抜クラス) II -2A 注1)			◎		1		
		ALPS (英語特別選抜クラス) II -2B 注1)			◎		1		
		ALPS (英語特別選抜クラス) III -1A 注1)				◎	1		
		ALPS (英語特別選抜クラス) III -1B 注1)				◎	1		
		ALPS (英語特別選抜クラス) III -2A 注1)				◎	1		
		ALPS (英語特別選抜クラス) III -2B 注1)				◎	1		
	表現伝達科目	フランス語A	◎					1	
		フランス語B	◎					1	
		中国語A	◎					1	
		中国語B	◎					1	
		ハングルA	◎					1	
		ハングルB	◎					1	
		スペイン語A	◎					1	
		スペイン語B	◎					1	
		日本語A 注2)	◎					1	
		日本語B 注2)	◎					1	
		フランス語会話		◎				1	
		中国語会話		◎				1	
		ハングル会話		◎				1	
		スペイン語会話		◎				1	
	日本語表現科目	日本語表現法		◎			1		
		日本語表現技法			◎			1	
	情報処理科目	情報処理基礎A	◎				1		
		情報処理基礎B	◎				1		
		情報処理応用A		◎				1	
		情報処理応用B		◎				1	
		データ・プレゼンテーション技法		◎				1	
		メディア・コンテンツ制作技法		◎				1	
		データ・サイエンス技法		◎				1	
		統計分析技法			◎			1	

注1) 「ALPS」の履修対象者は、選抜された学生に限る。

注2) 「日本語 A」「日本語 B」の履修対象者は、留学生・帰国学生に限る。

(3) グローバル・コミュニケーション学科授業科目一覧 (2024年度入学生用)

<基本教育科目：教養演習科目・表現伝達科目>

区 分	授 業 科 目		履 修 年 次				単 位 数		卒 業 要 件
			1	2	3	4	必修	選択	
基 本 教 育 科 目	教養演習 科 目	教養基礎演習 A	◎				1		基本教育科目は、以 下の要件を満たした うえ合計46単位以 上を修得しなければ ならない。
		教養基礎演習 B	◎				1		
	英 語 表 現 科 目	College English I -1A	◎				1		なお、専門教育科目 の各科目区分の要件 をみたしたうえ78 単位を超えて修得し た単位については、 8単位を上限として 基本教育科目とみな すことができる。
		College English I -1B	◎				1		
		College English I -2A	◎				1		
		College English I -2B	◎				1		
		College English II -1A		◎			1		
		College English II -1B		◎			1		
		College English II -2A		◎			1		
		College English II -2B		◎			1		
		ALPS (英語特別選抜クラス) I -1A 注1)		○				1	
		ALPS (英語特別選抜クラス) I -1B 注1)		○				1	
		ALPS (英語特別選抜クラス) I -2A 注1)		○				1	
		ALPS (英語特別選抜クラス) I -2B 注1)		○				1	
		ALPS (英語特別選抜クラス) II -1A 注1)			○			1	
		ALPS (英語特別選抜クラス) II -1B 注1)			○			1	
		ALPS (英語特別選抜クラス) II -2A 注1)			○			1	
		ALPS (英語特別選抜クラス) II -2B 注1)			○			1	
		ALPS (英語特別選抜クラス) III -1A 注1)				○		1	
		ALPS (英語特別選抜クラス) III -1B 注1)				○		1	
		ALPS (英語特別選抜クラス) III -2A 注1)				○		1	
		ALPS (英語特別選抜クラス) III -2B 注1)				○		1	
	初 習 外 国 語 科 目	フランス語 A	○					1	①教養演習科目は必 修科目2単位を修得 しなければならない。 ②表現伝達科目は、 必修科目11単位を 含め、合計16単位 以上を修得しなけれ ばならない。
		フランス語 B	○					1	
		中国語 A	○					1	
		中国語 B	○					1	
		ハングル A	○					1	
		ハングル B	○					1	
		スペイン語 A	○					1	
		スペイン語 B	○					1	
		日本語 A 注2)	○					1	
		日本語 B 注2)	○					1	
		フランス語会話		○				1	
		中国語会話		○				1	
		ハングル会話		○				1	
		スペイン語会話		○				1	
	日本語 表現科目	日本語表現法		◎			1		
		日本語表現技法			○			1	
	情 報 処 理 科 目	情報処理基礎 A	◎				1		
		情報処理基礎 B	◎				1		
		情報処理応用 A		○				1	
		情報処理応用 B		○				1	
		データ・プレゼンテーション技法		○				1	
		メディア・コンテンツ制作技法		○				1	
		データ・サイエンス技法		○				1	
		統計分析技法			○			1	

注1) 「ALPS」の履修対象者は、選抜された学生に限る。

注2) 「日本語A」「日本語B」の履修対象者は、留学生・帰国学生に限る。

(4) 英語コミュニケーション学科 授業科目一覧 (2024年度入学生用)

<基本教育科目：教養演習科目・表現伝達科目>

区 分			履 修 年 次				単 位 数		卒 業 要 件
			1	2	3	4	必修	選択	
基 本 教 育 科 目	教養演習科目	教養基礎演習 A	◎				1		基本教育科目は、以下の要件を満たしたうえで合計46単位以上を修得しなければならない。 なお、専門教育科目の各科目区分の要件を満たしたうえで78単位を超えて修得した単位については、8単位を上限として基本教育科目とみなすことができる。 ①教養演習科目は必修科目2単位を修得しなければならない。 ②表現伝達科目は、必修科目11単位を含め、合計16単位以上を修得しなければならない。
		教養基礎演習 B	◎				1		
	英 語 表 現 科 目	College English I -1A	◎				1		
		College English I -1B	◎				1		
		College English I -2A	◎				1		
		College English I -2B	◎				1		
		College English II -1A		◎			1		
		College English II -1B		◎			1		
		College English II -2A		◎			1		
		College English II -2B		◎			1		
		College English II -3A 注1)		◎				1	
		College English II -3B 注1)		◎				1	
		College English II -4A 注1)		◎				1	
		College English II -4B 注1)		◎				1	
		ALPS (英語特別選抜クラス) I -1A 注2)		◎				1	
		ALPS (英語特別選抜クラス) I -1B 注2)		◎				1	
		ALPS (英語特別選抜クラス) I -2A 注2)		◎				1	
		ALPS (英語特別選抜クラス) I -2B 注2)		◎				1	
		ALPS (英語特別選抜クラス) II -1A 注2)			◎			1	
		ALPS (英語特別選抜クラス) II -1B 注2)			◎			1	
		ALPS (英語特別選抜クラス) II -2A 注2)			◎			1	
		ALPS (英語特別選抜クラス) II -2B 注2)			◎			1	
	表 現 伝 達 科 目	ALPS (英語特別選抜クラス) III -1A 注2)				◎		1	
		ALPS (英語特別選抜クラス) III -1B 注2)				◎		1	
		ALPS (英語特別選抜クラス) III -2A 注2)				◎		1	
		ALPS (英語特別選抜クラス) III -2B 注2)				◎		1	
	初 習 外 国 語 科 目	フランス語 A	◎					1	
		フランス語 B	◎					1	
		中国語 A	◎					1	
		中国語 B	◎					1	
		ハングル A	◎					1	
		ハングル B	◎					1	
		スペイン語 A	◎					1	
		スペイン語 B	◎					1	
		日本語 A 注3)	◎					1	
		日本語 B 注3)	◎					1	
		フランス語会話		◎				1	
		中国語会話		◎				1	
		ハングル会話		◎				1	
		スペイン語会話		◎				1	
	日本語表現科目	日本語表現法		◎			1		
		日本語表現技法			◎			1	
	情 報 処 理 科 目	情報処理基礎 A	◎				1		
		情報処理基礎 B	◎				1		
		情報処理応用 A		◎				1	
		情報処理応用 B		◎				1	
		データ・プレゼンテーション技法		◎				1	
		メディア・コンテンツ制作技法		◎				1	
		データ・サイエンス技法		◎				1	
		統計分析技法			◎			1	

注1) 「College English II -3A」「College English II -3B」「College English II -4A」「College English II -4B」は、教職課程の履修登録を行っている学生のみ履修することができる。

注2) 「ALPS」の履修対象者は、選抜された学生に限る。

注3) 「日本語 A」「日本語 B」の履修対象者は、留学生・帰国学生に限る。

東洋学園大学 数理・データサイエンス・AI 教育運営委員会規程

(設 置)

第1条 東洋学園大学(以下「本学」)に、数理・データサイエンス・AI 教育運営委員会(以下、「委員会」という)を置く。

(目 的)

第2条 委員会は、数理・データサイエンス・AI 教育プログラム(以下「プログラム」という。)の円滑な運営を図るために必要な連絡調整を行い、本学におけるプログラムの推進及び質の向上を図ることを目的とする。

(組 織)

第3条 委員会は、次に掲げる者をもって構成される。

- (1) 委員長は、文部科学大臣が認定するプログラムごとに学長が指名する。
- (2) 委員は教職員の中から若干名を文部科学大臣が認定するプログラムごとに委員長が指名する。
- 2 委員長及び委員の任期は原則文部科学大臣が認定するプログラムの計画期間とする。
- 3 委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は前任者の残任期間とする。
- 4 委員長は必要により、委員以外の教育職員及び事務職員等を委員会に出席させることができる。

(運 営)

第4条 委員会は、委員長が招集し、その議長となる。

- 2 委員長に事故あるときは、委員長が予め指名する委員がその職務を代行する。

(審議事項)

第5条 委員会は、第2条の目的を達成するために次の事項を審議する。

- (1) プログラムの更なる質の向上を促進する為に、身に付けることのできる能力、修了要件、開設される授業科目、授業の方法及び内容並びに実施体制についての検証及び改善に関する事項
- (2) 学生に対するプログラムの履修を促す取り組みに関する事項
- (3) プログラムについての自己点検・評価に関する事項
- (4) プログラムの情報公開に関する事項
- (5) その他プログラムの実施に際し必要な事項

(議 事)

第6条 委員会は、委員の3分の2以上の出席が無ければ開会することができない。

- 2 委員会の決議は、出席者の過半数の同意による。賛否同数の時は議長の議決による。

(自己点検・評価)

第7条 第5条第3項に掲げる自己点検・評価は次に掲げる事項について、委員会において行う。

- (1) プログラムの履修・修得状況、学習成果に関する事項
- (2) 学生アンケート等を通じた、学生の内容の理解度・他の学生への推奨度に関する事
- (3) 全学的な履修者数・履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況
- (4) プログラム修了者の進路・活躍状況、企業等の評価に関する事項
- (5) 産業界等社会からの視点を含めた、プログラム内容・手法に関する事項

(情報公開)

第8条 第5条第4項に定める情報公開は、認定に関する申請様式、毎年の自己点検・評価結果等を本学のホームページに公開するものとする。

2 前項の情報に加え、次に掲げる情報も積極的に公開するように努める。

- (1) プログラムの中で学生が実際に取り組んだ課題や扱ったデータ・ツール等
- (2) プログラムで用いた教材、プラットフォーム等
- (3) データサイエンスを身近なものとして学生が実感し、それを活用・応用するための工夫・取組
- (4) 学修成果の可視化に関する取組

(庶務)

第9条 委員会に関する庶務は、教養教育センター事務局が総括調整する。

(規程の改廃)

第10条 この規程の改廃は、委員会の議を経て学長が行う。

附 則

この規程は、令和5年10月1日から施行する。

東洋学園大学 数理・データサイエンス・AI 教育運営委員会規程

(設 置)

第1条 東洋学園大学(以下「本学」)に、数理・データサイエンス・AI 教育運営委員会(以下、「委員会」という)を置く。

(目 的)

第2条 委員会は、数理・データサイエンス・AI 教育プログラム(以下「プログラム」という。)の円滑な運営を図るために必要な連絡調整を行い、本学におけるプログラムの推進及び質の向上を図ることを目的とする。

(組 織)

第3条 委員会は、次に掲げる者をもって構成される。

- (1) 委員長は、文部科学大臣が認定するプログラムごとに学長が指名する。
- (2) 委員は教職員の中から若干名を文部科学大臣が認定するプログラムごとに委員長が指名する。
- 2 委員長及び委員の任期は原則文部科学大臣が認定するプログラムの計画期間とする。
- 3 委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は前任者の残任期間とする。
- 4 委員長は必要により、委員以外の教育職員及び事務職員等を委員会に出席させることができる。

(運 営)

第4条 委員会は、委員長が招集し、その議長となる。

- 2 委員長に事故あるときは、委員長が予め指名する委員がその職務を代行する。

(審議事項)

第5条 委員会は、第2条の目的を達成するために次の事項を審議する。

- (1) プログラムの更なる質の向上を促進する為に、身に付けることのできる能力、修了要件、開設される授業科目、授業の方法及び内容並びに実施体制についての検証及び改善に関する事項
- (2) 学生に対するプログラムの履修を促す取り組みに関する事項
- (3) プログラムについての自己点検・評価に関する事項
- (4) プログラムの情報公開に関する事項
- (5) その他プログラムの実施に際し必要な事項

(議 事)

第6条 委員会は、委員の3分の2以上の出席が無ければ開会することができない。

- 2 委員会の決議は、出席者の過半数の同意による。賛否同数の時は議長の議決による。

(自己点検・評価)

第7条 第5条第3項に掲げる自己点検・評価は次に掲げる事項について、委員会において行う。

- (1) プログラムの履修・修得状況、学習成果に関する事項
- (2) 学生アンケート等を通じた、学生の内容の理解度・他の学生への推奨度に関する事
- (3) 全学的な履修者数・履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況
- (4) プログラム修了者の進路・活躍状況、企業等の評価に関する事項
- (5) 産業界等社会からの視点を含めた、プログラム内容・手法に関する事項

(情報公開)

第8条 第5条第4項に定める情報公開は、認定に関する申請様式、毎年の自己点検・評価結果等を本学のホームページに公開するものとする。

2 前項の情報に加え、次に掲げる情報も積極的に公開するように努める。

- (1) プログラムの中で学生が実際に取り組んだ課題や扱ったデータ・ツール等
- (2) プログラムで用いた教材、プラットフォーム等
- (3) データサイエンスを身近なものとして学生が実感し、それを活用・応用するための工夫・取組
- (4) 学修成果の可視化に関する取組

(庶務)

第9条 委員会に関する庶務は、教養教育センター事務局が総括調整する。

(規程の改廃)

第10条 この規程の改廃は、委員会の議を経て学長が行う。

附 則

この規程は、令和5年10月1日から施行する。

大学等名	東洋学園大学	申請レベル	リテラシーレベル
教育プログラム名	数理・データサイエンス・AI教育プログラム	申請年度	令和7年度

プログラムの目的

これからの社会で求められる情報リテラシーや、データを読み解く力を身につけるとともに、データとデジタル技術を活用し、社会の様々な問題により、効果的な解決策を見つける力を育成することを目的とする。

修了要件、開講科目

以下の2科目を1年次必修科目として開講。合計2単位修得を修了要件とする。

- ・ 情報処理基礎A（1単位）
- ・ 情報処理基礎B（1単位）

身に付けられる能力

- ・ データリテラシー(データを読み解き、判断する力)
- ・ データを読み解いてインプット・アウトプットする力
- ・ 批判的思考力をもって数字を読み取り情報発信する力

対象学生

1年生(全学部)

実施体制

数理・データサイエンス・AI教育運営委員会が以下の事項を審議するとともに、円滑な授業運営を図るために、担当教員等と必要な連絡調整を行う。

(審議事項)

- ・ プログラムの更なる質の向上を促進する為に身につける事ができる能力、修了要件、開設される科目、授業の方法及び内容並びに実施体制についての検証および改善に関する事項。
- ・ 学生に対するプログラムの履修を促す取り組みに関する事項。
- ・ プログラムについて自己点検・評価に関する事項。
- ・ プログラムの情報公開に関する事項。
- ・ その他プログラムの実施に際し必要な事項。